



学校だより 春休み号

～笑顔いっぱい やる気いっぱい 地域に育つ緑園の子～

泉区緑園五丁目28番

TEL (811) 6710

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuenhigashi/>

バトンタッチ

～自分の思いをもち 互いの思いを認め合う子～

校長 副島 江理子

3月18日(金)に、第26回卒業証書授与式が行われ、無事に84名の卒業生が巣立っていきました。保護者の皆様をはじめ、例年にも増して多くの地域・来賓の皆様にご列席を賜りましたことは、大変光栄であり、感謝の思いでいっぱいでございます。改めて御礼を申し上げます。

また、本年度、本校の学校教育活動に多大なるご支援とご理解を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

卒業式に向けて、5年生を中心とした在校生の活動には、6年生への思いが十分に込められており大変感動的でした。5年生が中心となって準備をした「ありがとう6年生の会」では、在校生の6年生を見つめるその眼差しが6年生への信頼と尊敬の気持ちを物語っていました。「目は口ほどにものを言う」とはまさにこのことです。6年生が入場し、それぞれの「なかよし班」に出向いた時の、在校生の安心した嬉しそうな笑顔。一年間、6年生の優しいリーダーシップのもとで異年齢で十分に楽しさを味わったからこそその笑顔でしょう。6年生の合唱「ぼくたちの城」を聴く在校生の真剣な姿。一人たりとも微動だにせず、固唾を呑んで見つめるその横顔に、私はとても心を打たれました。子どもの思いとは、言葉だけではなくこのような眼差し、一挙手一投足に表れることを実感しました。

卒業式の前日に、5、6年生による「バトンタッチの会」が行われました。これは6年生が最高学年としての心得を5年生に伝えるものです。その中で印象的だったのは、委員会活動やなかよし活動、学校行事での最高学年としての役割だけではなく、6年生の学習そのものの楽しさや進め方のポイントを説明したことです。特に「卒業研究」への取組が小学校生活の集大成として大きな意味があったことが伝わってきました。

今年度の6年生の要所要所での素晴らしい姿には、一人ひとりが自分のやりたいこと、やるべきことを明確に自覚し、見通しをもって取り組み、常に自分を振り返りながら進んで来たことの成果を感じました。

また、小さい子どもたちへの優しさには、なかよし活動を中心とした、年長者のリーダーシップのもとで異年齢の子どもたちが互いに交流することのよさを感じました。

お別れ式での各学年代表児童の「6年生への言葉」には、6年生との関わりについての思いが自分の言葉で生き生きと表現されており感心しました。

このように、緑園東小学校の子どもたちは自分の思いを強くもてるようになってきたことを感じます。これは6年生同様、一人ひとりの学習や活動に対する明確な意思と、関わり合いから生まれる相手への温かい思いが育ってきているからではないかと思われます。

学校では6年生が卒業して子どもたちは寂しさを感じていますが、すでに来年度の準備が始まっています。5年生は卒業式の経験を経て最高学年への自覚を高めました。1年生は入学式でのアトラクションの準備に余念がありません。4年生は研究レポートや卒業式見学を経験して高学年への準備が整いました。2年生は中学年になることへの希望をもち、3年生は4年生で始まるクラブ活動への期待に胸を膨らませています。

来年度も、一人ひとりの思いを大切に、明確な意思をもって学習や活動に取り組むこと、新6年生が中心となって異年齢が力を合わせて活動することで、自分の思いも相手の思いも大切に、互いに認め合う子どもたちを育てることに一層の力を注いでまいりたいと思います。

